

安全で働きがいを高める 環境整備に向けて思うこと

まつもと ようへい
松元 洋平

●全国電力関連産業労働組合総連合・労働政策局長

2021年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。開催の是非についてはいろいろな意見がありましたが、大会期間中、日本人選手の活躍を毎日のように目にしました。本来、2020年に開催予定でしたが、世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大していたこともあり、翌年に延期されました。選手たちはオリンピック・パラリンピックに向けて、コロナ禍かつ延期という調整が難しかった中であっても、多くの競技で世界記録が出されました。これは、選手たちがモチベーションを持ち続け、勝利や記録更新等を目指してきたからだと思います。

私の所属する電力総連の組合員は、新型コロナウイルスの感染が拡大する中でも、感染防止に努めつつ、電力設備の保守・運用を行い、社会生活に欠かすことのできない電気を安定してお客さまに届けられるよう、エッセンシャルワーカーとして日々働いています。常日頃から、電力設備の不具合がないか点検等を実施していますが、万が一設備トラブルが発生し、停電した際には、昼夜を問わず、早期に停電を復旧できるように対応にあたります。地震や台風等の災害時においても同様です。近年は、大規模災害が多発していますが、電力設備も被害を受け、大規模化することがあります。そのため、被害を受けた地域の労働者だけでは復旧に時間を要してしまう場合は、全国各地から被災地に駆けつけ、普段の受け持ち地域ではなくても、対応者のみんなで力を合わせて設備の早期復旧に向

け懸命に作業にあたります。このような、電気を安定的に供給し、トラブル時に早期復旧を行うことは、これまで脈々と継承されてきた使命感と責任感によるものです。この使命感や責任感を次代に受け継ぐためには、電力関連産業で働く労働者のエンゲージメントを高めていく取り組みも必要と考えます。

一方で、電力総連の中では、労働災害撲滅に向けた取り組みを進めているものの、毎年、労働災害が発生し、多くの仲間が被災しています。労働災害が発生した際は、原因分析を行い、再発防止対策を行います。時間とともにその再発防止対策が形骸化され、十分に機能せず、過去の類似災害が発生することもあります。過去に検討した再発防止対策の中には、安全意識の啓発等、精神論に頼っていたものもあり、そのことが過去の教訓を活かせず、類似災害を起してしまう原因の一つではないかと思います。労働者が安全に作業していくためには、精神論だけでなく、技術的な物理的対策を行っていくことも必要と考えます。職場から労働災害を撲滅していくために、労働者が安全に働けるよう労使でさらに議論していかなければならないと思います。

このように、労働者が安心して、安全に働き、働きがいを高めていくためには、働きの価値に見合った労働条件や働きやすい労働環境を作っていくことが不可欠であり、労働組合の一つの重要な役割であると考えます。